

第 17 回放送の概要（2018 年 9 月 22 日）

本日のテーマ：「女性の働きと社会のあり方」

この番組は 2017 年 4 月 22 日が第 1 回放送で、今回は 17 回目です。ママのメンバーが入れ替わりで続けてきたが、ママ達のこどもが育ってきて、第 4 土曜日のこの時間に何かこどもの行事があったり、親の手伝い、地域の行事などが重なったりしながらも 4 人が日程を調整してきたが、続けるのが難しくなったので本日の放送で一旦お休みすることに決めました。

女性は年齢、ライフスタイルなど置かれている環境が変わっていくので、その時は出来てもちょっと環境が変わると出来なくなる、と以前たまちゃんが言っていた。17 回放送を続けられたのは奇跡的で、よく続けられたと思っている（まきちゃん）。

メンバーとゲスト紹介します。

あっちゃん：50 歳代、20 歳代の娘 2 人。地元で算数教室「はじめてのおけいこ」を個人で経営。

ちおんちゃん：30 代。3 歳になった男の子。今は大変な時期で毎日下ネタで爆笑し、大人の反応を楽しんでいる。写真を撮る時は常に手の位置はあそこ。仕事はベビーマッサージ、ベビーヨガの教室をしている。

かずえちゃん：30 代後半。間もなく 1 歳になる娘が 1 人。最近立ったりしゃべり始めた。仕事は大正筋商店街にある子育て支援総合施設 K I T で働いている。

まきちゃん：41 歳、中 1 女子（吹奏楽部）、小 5 男子、小 2 女子。仕事は念願が叶い、小学校の放課後に 3, 4 年生の宿題のお手伝いをする。神戸市のモデル校で地域の協力を得て先生の負担を減らし、子ども達の学力を上げる。算数と国語を教える予定。

子どもは何かあればお母さんに向かう。それは育児はお母さんが関わる時間が長いので、子どもに自然に身についたもの。今日のテーマは女性の働きと社会自体のあり方みたいなことにするが、女性がやらないといけないとか、こどもの迎えなどお母さんが会社を休んですべきと思われるが、そこはお父さんでもいいのではないかなと思う。そのようなことについていつももやもや思いながら育児をしている。本日はこのような事についてしゃべってみたい（まきちゃん）。

女性が輝く社会という言葉をよく聞くと、輝くという言葉が与える印象、その捉え方がきれいにしてきらびやなという（ちおんちゃん）。昨日も言われたが熱心に仕事の話をしていると、職場の男性から、女さぼるなと言われあっと思い、そうですねと流した。そこでごちゃごちゃして進まないのは自分も求めている（かずえちゃん）。男さぼるなと言われたらどうなるのと思う（まきちゃん）。その人は男はさぼっていると言っていた。エッチな事に興味がないねんと言っていた（かずえちゃん）。女性は性的な事を求められているのか。飾り物見たいなことか（まきちゃん）。惹かれる女性のようなことではないか（ちおんちゃん）。それなら男性も髪の毛を散らかさんといてと思う（あっちゃん）。それは男女の問題ではなく、ある程度の清潔感、品位など個人の感覚の問題かも知れないが嫌な言葉である（まきちゃん）。

だけどそれは腹がたつ（ちおんちゃん）。女性が輝くはそういうニュアンスが含まれている、更に働いて子育てして介護して忙しくさせている（かずえちゃん）。SNS開いてもキラキラママがよくのっている。専業主婦でも赤ちゃんを育てている時は髪の毛を乱し、すっぴんで戦っているはずであるが、一生懸命きれいにしている。女性の起業家が流行っておりキラキラしている。自分も何か取得して生き生き輝いて生活しましょう、そして頑張っていますみたいな感じ（ちおんちゃん）。しかし現実には小学校や幼稚園で子どもが熱を出しました、怪我をした場合は飛んで行かないといけませんが、その時に化粧して整えてから行くかということそうではない。その時は最優先で飛んで行くのがリアル（まきちゃん）。

リアルから色々な事や時代がかけ離れ過ぎている。そしてそれは女性だけ。男性はそれほど大きな変化はないと思う（ちおんちゃん）。食洗機など家事も楽になっているから、その分女性は家のことも仕事を持って出来るのちゃうかと、しかもSNSでいかにもきれいに出来ているみたいに目に触れるので、すごい誤解がある、本当はすごいアナログで、主人との向き合い方もそうで、色々殺伐とする（まきちゃん）。産後のぼろぼろの時に、ニュースぐらい見てないのと言われた事を一生忘れない（かずえちゃん）。毎日主人が帰ってきて食事の時にスポーツの話などをしてくる。知っている前提でしゃべってくる。ちょっと待って、大体そんなこと知らないしと返事する。完全に浦島太郎の状態置いてきぼりの状態になっている。TVなんかつけている余裕はないと言っている（ちおんちゃん）。TVをつけていてもぼーっとしか見てないので頭に入ってこない（まきちゃん）。

それは産後鬱の状態からきているのか。本当に余裕がないので、夜も起こされ、昼間も突発的な事に対応せざるを得ないことが多い。今自分が選んでやってあげている状況ではないから、そのストレスは凄いと思う（まきちゃん）。自分の思い通りにならない、たいしたことでもなくとも、今トイレに行きたいとかさえ出来ないつらさがすごいストレスになる（ちおんちゃん）。独身時代に出来過ぎているからそのギャップが半端ない。お母さんになり産んだから仕方がないと、自分を戒め納得させて、みんなやっていて自分だけ出来ないのはおかしいな、あかんのやろなと責めている。しかしそれがどれだけ伝わっているのか。その大変さを分かった上で行政の支援があるのか、大変な人は自分から声をあげれない（まきちゃん）。本当に大変な人は大変、助けてと言えない。なかなか難しい一歩である（ちおんちゃん）。今は個人情報と言われあまり踏み込めず、互いに遠慮して変な距離がある（まきちゃん）。行政は待っている事しか出来ない。来てくれたら対応はするが、踏み込んでばーっとは出来ないの、目に見えないところで色々な事が起る（ちおんちゃん）。

だから昔ながらの婦人会とか地域の団体はお節介。行政はお節介出来ない。地域の場合自分達が経験しているので、きっと大変やろな顔やお腹を見るとわかる。大丈夫と言っているけど本当に大丈夫かなと気づいてくれる（まきちゃん）。お節介おばさんは大事。ちょっと一声かけるとか、しかし声のかけ方が難しい。自分が辛かった時、よく「大丈夫？」と聞かれることはある。ある時すごい年配の方に遠巻きにさらっと声をかけてもらった時にふっとなったことがある。お母さん頑張ってるね、こんな大変な時はすぐに思い出になるからね、とか言われた（ちおんちゃん）。日頃褒めてもらえる言葉はかけてもらえないので、その一言はうれしい（あっちゃん）。仕事をしている時は一時保育にいられている。担任がすごい年配で、行き始めて数回目の時に「お母さんよく育てたね」と言われ、何のことかわからず、保育園で過ごしている子供の姿を通して、家でのご過ごし方を感じたと言ってもらえた。おもちゃで遊ぶ時も

あれこれやるのではなく、一つ終わってから次に変わるとか、お話するよと言われると座るとか、子供には出来そうで出来ない事を先生は見ている。食事中もじっと座ってご飯が来るのを待っていることなどから、お母さんが家でやっているのだなと思ったと先生から言われた時、自分としては普通のことと
思っていたことが評価され、涙が出てきた。(ちおんちゃん)。家で普通に教えている事は、外で他人に
迷惑をかけないようにという思いから、これは言うておかなければと意識してやっている。子供は放
ておれば育つとは思っていない。子供の姿をほめてもらうのは一番うれしい(まきちゃん)。保育園は家
から外に出したはじめての経験で、それまでは一心同体すぎて、いつも目の前で起っていることで思わ
なかったが、見てくれているんだと思いうれしかった(ちおんちゃん)。

そういう意味で反対に言うと、お母さん同志、大人同士で結構ハードルを上げている部分がある(ま
きちゃん)。ママと一緒に遊んでいる時もお宅はそうしているからという、ちょっとした緊張感、自分に
対するプレッシャーを感じる(ちおんちゃん)。テーブルに平気で上がる子供がいたりすると「家でちゃ
んと教えておけよ」と思うが、それは余裕がないことを分かっているの、やさしく思えばよいが、マ
マ同士ではそうは思わない(まきちゃん)。周りの子どもがじっと座って食べているのに、自分の子ども
が立ちあがりはじめると座りなさいよ、ちゃんとしとけと思う(ちおんちゃん)。我が子もそのようなと
ころはあるので人に求められるのかなと思い、自分がしんどいだけと思うのでお互いに寛容にしたい。
児童館に連れて行くのもお母さん、いまだにお父さんではない(まきちゃん)。習い事に連れて行くのも
お母さん(ちおんちゃん)。だから女性は習い事の時間には帰宅出来る時間に合わせる働き方になる(ま
きちゃん)。幼稚園バスが来るからとお母さんがあわてて出て行くが、お父さんでもいいのではないか(ち
おんちゃん)。塾の送り迎えひとつやってもらったことはない(あっちゃん)。

働くことをお互いが両立させるなら、その部分もPTAも地域の掃除もお互いにする必要がある。
男の子の我が子に朝ご飯が作れるよう目玉焼きが出来るようにしているが、洗濯物をたためるように教
える必要がある。当たり前のお家の用事が出来る男の子に育てる必要がある(まきちゃん)。実家を出たこ
とがない男性が多い。一人暮らしをした男子は色々出来る。土日の朝は自分が寝ていて食事を作っても
らい、出来たと言って起こしてくれるが、自分のしてはラッキーと思えず、何処かでごめんという気持
ちが出てしまうが、自分も沢山の事をしているので甘えようと思う(ちおんちゃん)。

このテーマは尽きることはない定期的にやりたいテーマ。ママトークの出発点は、第4土曜日16時
~17時の「ゆうかりに乾杯」の番組の「ちょっと大人の女子会」で一度取り上げ、それをこの世代でや
ろうということで始まった。色んな番組で色んな世代でしゃべって、変わってないやん、変えなあかん
や、ここは残そうといったことをFMYYという場所でしゃべり続けたいと思う(まきちゃん)。

番組の感想は、

ママトークは好き放題しゃべれること、メンバーの中では年長であるが、若い年代の中に入れても
らいうれしいし、とても好きな番組である(あっちゃん)。

リスナーの皆さんにご迷惑をかけてないか毎回ドキドキしながらしゃべってきた。ここで色々ぶちま
け。共感してもらい、納得して、しゃべった後の帰り道が凄く軽くなる幸せな場所でした(ちおんち
ゃん)。

体調がしんどすぎた頃は、話すことが思い浮かばなかった。今回結構話せるようになった。当時はラジオは向いていないと思った（かずえちゃん）。

以上